

あおぞら通信

19年度の主な取り組み

「人権を考える週間」市民の集い

法務省からの委託事業である、平成19年度地域人権啓発活動活性化事業のひとつとして、市民の集いを12月15日にカルチャープラザのべおか多目的ホールで開催しました。第1部では、市民の皆様から募集した「大切な人へ伝えたいこころのメッセージ」(作品の一部を裏面に掲載)の選考作品100編のうち、30編を朗読発表しました。



【笑福亭 松枝さん】

観客300人を前に「ゆめの木文庫」で絵本の読み聞かせをされている芥美奈子さんが朗読をされ心洗われるメッセージに多くの方から感動の声をいただきました。

第2部では、落語家の笑福亭松枝さんを講師に迎えて、「みんな違う顔、でも同じ

ハート」と題し、落語と講演をしていただきました。楽しい雰囲気の中で「思いやり」や「勿体無い」の心を落語の中におり混ぜて、人権についてわかりやすく考えさせていただきました。アンケートでも「人を尊敬する気持ちや謙虚な心を忘れないようにしたい」「楽しく人権について学べた」などの意見がたくさんありました。

第23回人権を考える週間作品展

12月11日から16日まで「カルチャープラザのべおか」(2Fアトリエ)にて作品展を開催しました。

市内の園児、小学生、中学生、高校生から合計489点(内訳:作文46点、詩46点、標語211点、絵画・ポスター186点)の作品が出品、展示されました。

また、今年度は園児の共同制作作品も募集し、「おおきなかぶ」という童話を参考に制作した貼り絵やバスに乗った自分をそれぞれ描いて並べた「なかよしばす」などみんなで協力して作った作品が19点も展示されました。

延岡市人権セミナー

延岡市と延岡市教育委員会との共催による人権セミナーをカルチャープラザのべおか(ハーモニーホール)で開催しました。3回のセミナーで約490名の参加がありました。

11/20 「これでわかった!部落の歴史」

講師:上杉 聡さん(関西大学文学部講師)

11/27 「こどもと人権~言葉が痛いと・・・」

講師:喜多 裕二さん(のびのびリース主宰)

12/5 「障がいを持つということ」

【障がい者週間記念行事】

講師:真北 聖子さん(シンガーソングライター)

人権週間 街頭人権啓発活動

法務局、延岡人権擁護委員協議会との共催による人権週間行事として、12月4日の「人権の日」に、ジャスコ延岡ニューシティ店で街頭啓発活動を行いました。

宮崎地方法務局の斉藤延岡支局長、林田延岡人権擁護委員協議会会長、首藤本協議会会長(市長)、マスコットの人KENマモル君をはじめ、関係者全員で買物客に人権尊重を呼びかけました。

法務局からパンフレットや啓発物品を配布し、本協議会からも花の苗を配布しました。

夏休みふれあい映画祭

毎年、児童の皆さんが楽しみにしている夏休みふれあい映画祭を延岡総合文化センター大ホールにて開催しました。今年も大人気で1000名を超える参加者がありました。今回は人権マスコットの人KENまもる君、人KENあゆみちゃんに出迎えや舞台でのあいさつにも登場していただき、参加した児童もたいへん喜んでいました。また北浦中央公民館においても夏休みふれあい映画祭を開催しました。

7/27 延岡総合文化センター（大ホール）

（アイスエイジ2ほかアニメ3本上映）

8/21 北浦中央公民館（アニメ「鬼がら」

ほか2本上映）



あなたの大切な人へ伝えたい

こころのメッセージ

8月から10月まで市民の皆様へ募集しました。一般の方、小学生、中学生、高校生と幅広い層から1221編の応募がありました。選考により100編を選び、その作品については、12月11日から16日まで「カルチャープラザのべおか」にて展示し、その内の30編を12月15日の「人権を考える週間市民の集い」（第1部）のなかで朗読発表しました。メッセージをご覧になった方々から感動の声が多数寄せられましたので、冊子にまとめ、延岡市のホームページでも紹介しております。また地元新聞や各新聞にも「こころのメッセージ」を特別に紹介していただき、NHK総合テレビでも特集番組の放送があり、県内外から大きな反響がありました。

20年度も募集する計画ですので、是非、皆様も応募ください。

NHK宮崎放送の「いっちょがワイド」で紹介された作品を紹介します。

貴方へ（一般）

貴方からの何気ない絵文字メール。元気になれる私があります。優しい貴方が大好き。

こころのメッセージ 冊子



とうこさんへ（小学3年生）
いつもわたしがおくれても くつ箱でまわってくれてありがとう。すごくうれしかったよ。

お母さんへ（中学2年生）
落ちこんでいる時、夕食は私の好きなメニューに変わる。母の気遣いに感謝しています。

お父さんへ（中学1年生）
いつもトラックの運転手を見ると、みんなお父さんに見えるよ。

漁師の父へ（中学3年生）
何年も乗り続けている船は小さいけれど貴方の釣ってくる魚はいつも日本一です。

家族へ（中学2年生）
いつも試合を見に来てくれてありがとう。ヒット一本一本が親孝行のつもり

「人・愛・希望～こどもたちの心にふれて」

人権啓発講演会

2月2日(土)野口記念館にて、歌手で、篤志面接委員・保護司の千葉紘子さんに「人・愛・希望～こどもたちの心にふれて」と題して講演をしていただきました。

千葉さんは、長年にわたり女子少年院の篤志面接委員として少女たちの相談にのり、また保護司として少女たちの更正を支援されています。

講演では現代の少女たちやその家族が抱える問題をとりあげ、差別やいじめは人の命や犯罪に影響する。近所の人の何気ない声かけだけでも子どもは愛されていると感じる。大人になることは、人を愛する側に立つということである。など、切々と話され、最後には千葉さんのヒット曲「折鶴」の熱唱のプレゼントもありました。

当日は小雨降る寒い日でしたが、約500人の観客は熱心に聴き入り、アンケートでは、「親子や人間関係の大切さを感じた。」「悩める子どもたちに何かお手伝いできないか」などの意見がありました。



(講演の後、スタッフと共に：中央が千葉さん)

「人権擁護委員」をご存知ですか？

人権擁護委員とは？

地域の中で人権思想を広め、人権が侵害されないように配慮して、人権を擁護していくことが望ましいという考えから設置されました。

住民が人権について関心を持ってもらえるような啓発活動を行ったり、法務局の人権相談所や市役所などの公共施設等において人権相談を受けるなどの活動をおこなっています。延岡市内には、現在17名の委員が委嘱され、啓発活動、人権相談等を行っています。

人権擁護委員は法務大臣が委嘱します。

まず市町村長が候補者を選び、議会の意見を聞いたうえで法務局へ推薦します。その後、法務大臣が委嘱します。任期は3年です。

活動の一部を紹介します。

・常設・特設の相談所等で人権相談に応じます。

常設相談所は大貫町にある宮崎地方法務局延岡支局(合同庁舎内)に設置され、土日祝祭日を除き毎日開設しています。相談は無料で、相談内容についての秘密は厳守されます。

・人権意識を高めるための人権啓発活動

特に人権擁護委員の日(6月1日)や人権週間(12月)には人権尊重の大切さをひろく呼びかけています。また人権の花運動を小学校等で実施し、人権教室も随時、開催しています。

・人権侵害による被害者を救済します。

「人権を侵害された」という被害者からの申し立てを受けて救済手続きを開始します。法務局職員と協力して情報の収集、人権侵害事件の調査、処理に当たります。

・子どもの人権SOSミニレター

子どもたちの気持ちに配慮した手紙による人権相談です。手紙や電話でお答えします。

【上記については、法務省人権擁護局作成の「人権擁護委員 その活動と役割」小冊子から引用】

ストップ! えせ同和行為

えせ同和行為とは、同和問題を口実として行われる不当な要求、不法な行為などです。主として高額な図書購入の強要、寄付金・賛助金等の強要があります。同和問題の啓発や差別をなくそうとする運動とは無関係なもので、同和問題の解決に真剣に取り組んでいる人々に対するイメージを著しく損ね、同和問題に対する誤った意識を植え付ける大きな原因となっています。要求の口実の多くが「同和問題の認識不足を突くこと」です。日頃から研修等を通じ、同和問題に対する認識を深めることが大切です。

最近は執拗に電話をかけてくる事例が多くなっています。このような電話がかかってきた、または困っているなど、何かありましたら、すぐに協議会事務局(市人権推進課)までご相談、お知らせください。

なお、対応マニュアル配布のご希望がありましたら協議会事務局へご連絡ください。

劇映画「新・あつい壁」(2007年製作)

ハンセン病問題をテーマとした「新・あつい壁」が製作されました。その映画を製作・監督された中山節夫さんが、来延。映画のPRのために協議会事務局にお見えになりました。

40年前に製作した「あつい壁」と今回の新作についての様々なエピソードや製作の意気込み等を熱く語られていました。監督は熊本の出身であり、生まれ育った所に国立ハンセン病療養所恵楓園があり、常に差別の現実を肌で感じていたと話されていました。

【映画のストーリー】

・・・若きルポライターが追った55年前の事件、真実を曲げたのは差別と偏見のあつい壁・・・

フリーライターである主人公は、たまたま取材で知り合ったホームレスの男から、55年前に熊本で起きた殺人事件の話が聞かされた。これを取材すればいい記事が書けるかもしれないとその話を手がかりに事件を調べ始める。それは、ハンセン病患者が殺人犯とされた事件だった。国立ハンセン病療養所恵楓園の自治会を訪れた卓也は、当時のことにくわしい元患者の方から事件や裁判の詳細な話を聞かされる。聞けば聞くほどに、犯人とされ死刑となった男性の無実を思わないではいられない話ばかりだった。。。



正しい採用選考について

企業や官公庁では、新規採用者の入社・入庁の時期になりましたが、採用をする場合の正しい採用選考について、次のことを再確認してみてください。正しい採用選考とは「本人の適正と能力のみを採用選考の基準とすること」です。

「本籍地」「家族構成」「親の職業」などの必要のない情報を提出させてはいないか。

また、面接では、本人の適性や能力に関係ない質問や興味本位の質問をしてはいないか、などです。

差別のない公正な採用選考を確立し、企業内の人権啓発を推進するために多くの企業が「公正採用選考人権啓発推進員」の選任をしていただいております。

無料貸出の人権啓発ビデオに新作品を追加しました。職場での研修にご利用ください。

No.	題名	分野	時間	作成	あらすじ
	ぬくもりを感じて 刺激的なイカイ中倉茂樹	同和問題	30分	2006年	年間70回に及ぶ講演活動を続けている。自らの体験を語り、人権・同和教育は皆が幸せになるための勉強だと訴える。
	白紙のページ 食肉と私たちの矛盾	同和問題	29分	2006年	私たちは食を支える現場を知っているのか。食肉を支えている人々の思いを取材し、食卓に「肉」が供せられるまでの過程を記録
	風と大地と梨の木と 第3章 老いのいきさき	高齢者	54分	2000年	高齢者夫婦の妻が「私という人間を一度も認めようとしなかった」と言い残し家出。共に生きるとは、老いとは何かを問う人権ドゥ